

エコアクション21

環境経営レポート

令和5年度版

運用期間：令和5年4月～令和6年3月



令和6年 6月3日 発行 株式会社 北九州テクノサービス

目次

表紙

目次

1. 取り組みの対象組織。活動	-----	1
●組織の概要		
●認証・登録範囲（組織・活動）		
●産業廃棄物収集運搬業の許可内容	-----	2
●産業廃棄物収集運搬業の許可品目		
2. 環経営境方針	-----	3
3. 実施体制	-----	4
4. 組織図及び認証・登録範囲	-----	5
5. 令和2年度及び中期環境経営計画	-----	6
6. 当年度の主要な環境経営計画	-----	7
7. 目標の実績	-----	8
8. 環境目標の達成状況とその評価	-----	9
9. 次年度の環境経営目標及び 環境経営計画	-----	10
10. 環境関連法規への違反、起訴等の有無		
11. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示	-----	11
取り組みの様子	-----	12

1. 取組の対象組織・活動

●組織の概要

事業所名	株式会社 北九州テクノサービス	
代表者名	岸ノ上 猛	
所在地	本社	福岡県北九州市若松区南二島一丁目6-6
	宮若事業所	福岡県宮若市倉久3572-2
環境管理責任者	山本 隆二	
連絡担当者名	定森 静香	
連絡先	TEL 093-701-6581	
	FAX 093-701-6582/093-701-6585	
E-mail	sadamori@kitakyutechno.jp	
事業内容	環境衛生管理業務、ビルメンテナンス及び産業廃棄物の収集運搬	
事業規模	法人成立年月日	平成25年7月1日
	資本金	1,000万円
	従業員数	21人
	延べ床面積	本社 1536㎡、宮若事業所 2785㎡
	売上高	302百万円（令和5年度）
	産業廃棄物の 収集運搬量	10012.18 t（令和5年度）
運搬車両の種類	特殊強力吸引車10t	5台
	特殊強力吸引車4t	3台
	高压洗浄車	3台
	資機材運搬車	4台
	営業車	5台
事業年度	4月1日～翌年3月31日	

●認証・登録範囲（組織・活動）

対象事業者名	株式会社 北九州テクノサービス	
対象事業所	本社、宮若事業所	
対象事業活動	環境衛生管理業務 ビルメンテナンス及び産業廃棄物の収集運搬	

認証登録範囲は全社全活動とする。

●産業廃棄物収集運搬業の許可内容

都道府県	許可の年月日	有効年月日	許可番号
福岡県	令和3年 3月 8日	令和10年 3月 7日	04000 172567
山口県	令和2年 12月21日	令和9年 12月20日	03500 172567
大分県	令和3年 1月20日	令和10年 1月19日	04408 172567
佐賀県	令和3年2月 9日	令和10年2月 8日	04101 172567
長崎県	令和3年 1月 25日	令和10年 1月 24日	04200 172567
熊本県	令和3年 1月25日	令和10年 1月24日	04305 172567
宮崎県	令和3年 2月5日	令和10年 2月4日	04503 172567
鹿児島県	令和3年 2月4日	令和10年 2月3日	04607 172567

・全県積替え保管はなし

●産業廃棄物収集運搬業の許可品目

許可項目（事業範囲）

	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	植物系残さ	ばいじん
福岡	●	●	●	●	●	●	●	●
山口		●	●	●	●	●	●	
大分		●	●	●	●	●	●	
佐賀		●	●	●	●	●	●	
長崎		●	●	●	●	●	●	
熊本		●	●	●	●	●	●	
宮崎		●	●	●	●	●	●	
鹿児島		●	●	●	●	●	●	

2. 環境経営方針

基本理念

株式会社 北九州テクノサービスは、『感謝・努力・笑顔』をスローガンにチームワークとチャレンジ精神で活気ある会社を目指します。

また弊社は、地域環境の改善を重要な課題と位置づけ、事業活動を通じて環境への負荷低減に積極的に取り組みます。そのため『エコアクション21』に基づく環境経営システムを構築、運用することにより継続的かつ着実に環境保全活動を行い、次世代に継承できる環境の実現を目指します。

行動指針

1. 二酸化炭素の排出を削減

節電を励行するとともに、エコドライブ・不必要なアイドリングを無くす等を実施して社用車（収集運搬者含む）の燃料使用量の継続的な削減を図ります。

2. 廃棄物（ごみ）の削減

ごみの分別を徹底してリサイクル率の向上を図ります。

社内書類の電子化を推進するなど、紙使用量の削減を図ります。

3. 水使用量の削減

節水に努め、水使用量を削減します。

4. 5S活動の推進

社内環境の向上に向け5S『整理・整頓・清掃・清潔・躰』活動を推進し

社内環境の向上、周辺地域の環境向上を図ります。

5. 法規遵守について

事業活動に関連する環境関連法規や条例等を遵守します。

6. 地域社会への貢献

地域社会と良好な環境コミュニケーションを図り、地域の環境保全に努めます。

7. 社内教育

この環境方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育を行い環境保全に向けた意識の向上に努めます。

8. 運搬車両の保全

定期的な車輛点検、メンテナンスを行い、故障や老朽化の抑えを図ります。

9. 顧客との関係

顧客のニーズに対応することにより、信用と信頼を得ることに努めます。

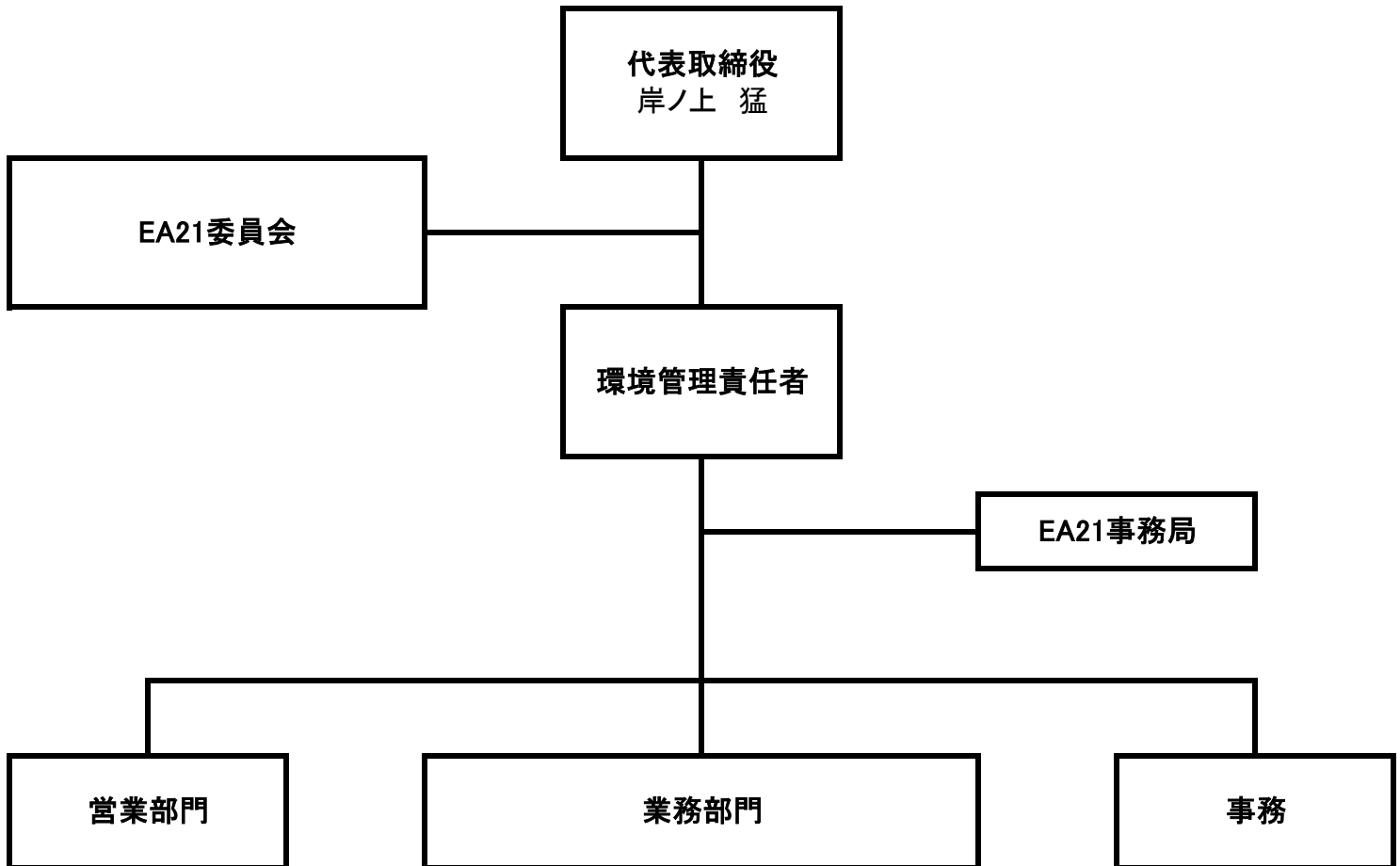
平成 29年 9月 4日 制定

令和3年4月1日 改定

株式会社 北九州テクノサービス

代表取締役 岸 上 猛

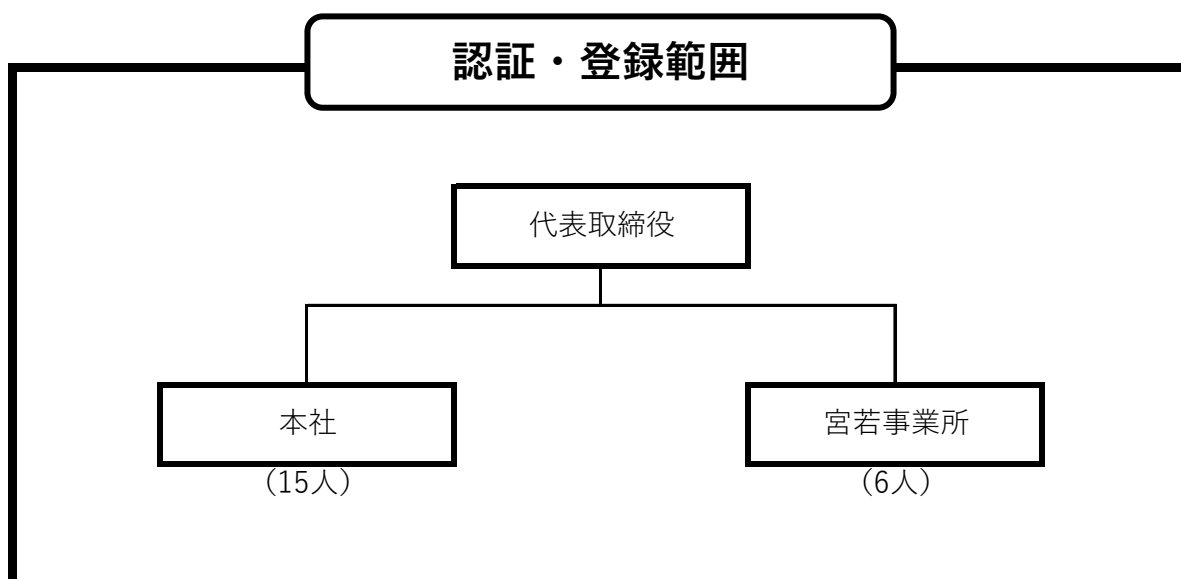
3. 実施体制



役割分担表

氏名	所属(役職)	役割・責任・権限・使命
岸ノ上 猛	代表者 (代表取締役)	全体の総括、環境方針の設定、全体の評価と見直し
	環境管理責任者 (部長)	全体の把握/環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
	EA21委員会	一カ月に一回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
	EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
	総務部門	電力、水消費量の管理
	製造部門	廃棄物の廃棄量管理、リサイクル率管理
	総務部門	車燃料(ガソリン、軽油)灯油消費量管理

4. 組織図及び認証・登録範囲



認証登録範囲は全社全活動とする。

5. 令和5年度環境経営目標

環境目標		単位	平成29年度		平成29年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			売上高	別表1	(基準年度)	目標	目標	目標	目標	
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/100万円	147	168565.2	1146.70	1066.4 以下 (7%)	1055.0 以下 (8%)	1043.5 以下 (9%)	1032.0 以下 (10%)	
	1-1 電力使用量の削減	kWh/100万円	147	11014.0	74.93	69.7 以下 (7%)	68.9 以下 (8%)	68.2 以下 (9%)	67.4 以下 (10%)	
	1-3 灯油使用量の削減	ℓ /100万円	147	874.0	5.95	5.5 以下 (7%)	5.5 以下 (8%)	5.4 以下 (9%)	5.4 以下 (10%)	
	1-4 ガソリン使用量の削減	ℓ /100万円	147	6205.0	42.21	39.3 以下 (7%)	38.8 以下 (8%)	38.4 以下 (9%)	38.0 以下 (10%)	
	1-5 軽油使用量の削減	ℓ /100万円	147	55776.0	379.43	352.9 以下 (7%)	349.1 以下 (8%)	345.3 以下 (9%)	341.5 以下 (10%)	
2	廃棄物総排出量の削減	ton	/		1.32	1.23 以下 (7%)	1.21 以下 (8%)	1.20 以下 (9%)	1.19 以下 (10%)	
3	総排水量（使用水量）の削減	m ³ /100万円	147	1165.0	7.93	7.4 以下 (7%)	7.3 以下 (8%)	7.2 以下 (9%)	7.1 以下 (10%)	
4	製品・サービスに関する事項	ルート時間短縮による燃費の向上	km/L (走行距離/軽油使用量)	/		2.0	2.2 以上 (7%)	2.2 以上 (8%)	2.2 以上 (9%)	2.3 以上 (10%)
5	地域社会への貢献	実施回数	/		実施	実施	実施	実施	実施	

※平成30年度からは、平成29年度の環境負荷の実績値を売上（100万単位）で割ったものを基準値とする。

6. 当年度の主要な環境経営計画

目 標		活 動 項 目	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二酸化炭素総 排出量の削減	電力使用量の削減	不使用PCの電源を切る	定森	実 行											
		不使用電気器の電源切る	定森												
	灯油使用量の削減	エコドライブ運動展開	山本												
	ガソリン使用量の削減	アイドリングストップ	山本												
	軽油使用量の削減	急加速の抑制	山本												
廃棄物総排出量の削減		ごみの出が少ない商品を使う	定森	実 行											
		器具を長持ちさせる	山本												
		缶・ペットは潰して捨てる	定森												
総排水量の削減		バルブ調節	橋本	実 行											
		定期的な漏水チェック	橋本												
		水道の止め忘れ注意	橋本												
ルート時間短縮による 燃費の向上		事前のルート確認	山本	実 行											
		エコドライブ運動展開	山本												
		アイドリングストップ	山本												
		急加速の抑制	山本												

7. 目標の実績

令和5年4月～令和6年3月 の運用期間の目標に於ける実績は以下の通りである。

環境目標		単位	令和5年4月～令和6年3月 目標（運用期間）		令和5年4月～令和6年3月 別表1 売上高		令和5年4月～令和6年3月 実績値	目標の達成率 （目標/実績）	
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2/100万円	1066.43	以下	290203.41	302	960.94	111%
	1-1	電力使用量の削減	kWh/100万円	69.68	以下	18130.00	302	60.03	116%
	1-3	灯油使用量の削減	ℓ /100万円	5.53	以下	153.00	302	0.51	1091%
	1-4	ガソリン使用量の削減	ℓ /100万円	39.26	以下	6855.18	302	22.70	173%
	1-5	軽油使用量の削減	ℓ /100万円	352.87	以下	102593.12	302	339.71	104%
2	廃棄物総排出量の削減		ton	1.23	以下	0.98		0.98	125%
3	総排水量（使用水量）の削減		m ³ /100万円	7.37	以下	1188.00	302	3.93	187%
4	製品・サービスに関する事項	ルート時間短縮による燃費の向上	km/L (走行距離/軽油使用量)	2.2	以上	2.8		2.8	127%

※電気の二酸化炭素排出係数は、九電の27年度の実排出係数0.509kg-CO2/kWhを適用。

※平成30年度からは、平成29年度の環境負荷の実績値を売上（100万単位）で割ったものを基準値とする。

8. 環境目標の達成状況とその評価

二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・削減目標を69.68kwh/100万円以下としたが、実績値60.03kwh/100万円となり目標を116%達成した。引き続き来年度も節約していく。

(2)燃料の使用量削減

① 灯油

- ・削減目標を5.53ℓ/100万円以下としたが、実績値は0.51ℓ/100万円となり目標1091%達成で大幅な削減に成功した。引き続き節約していく。

② ガソリン

- ・削減目標を39.26ℓ/100万円以下としたが、実績値22.7ℓ/100万円となり目標を173%達成できた。次年度も引き続き意識して節約していく。

③ 軽油

- ・削減目標を352.87ℓ/100万円以下としたが、実績値339.71ℓ/100万円となり目標の104%達成となった。年々、定期の遠方の現場が増えており軽油使用量は増加している。燃費効率をより意識し来年も引き続き節約していく。

(3)廃棄物排出量の削減

- ・削減目標を1.23t以下としたが、実績値0.98tとなり目標を125%達成となった。引き続き毎月の経過報告と呼びかけを行う。

(4)排出水量（使用水量）の削減

- ・削減目標を7.37m³/100万円以下としたが、実績値3.93m³/100万円となり目標の187%と大幅の目標達成となった。次年度も引き続き削減に努める。

(5)ルート時間短縮による燃費の向上

- ・削減目標を2.2km/ℓ以上としたが、実績値2.8km/ℓとなり目標を127%達成となった。引き続き意識付けを行う。

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

●次年度の環境経営計画

(1)二酸化炭素排出量の削減

1) 電気使用量の削減

- ・電気機器不使用時の電源OFFを徹底、使用時も時間帯により明かりの必要ない部屋の区画を切っておくなど、削減を意識して行動していく。
- ・エアコン運転時、快適温度から必要以上の下げ過ぎ、上げ過ぎに注意する。戸の閉め忘れに注意し部屋温度を適切に保つ努力をする。

2)燃料の使用量削減

① 灯油

- ・室内の暖房は電気に切り替え、ストーブの使用台数は外のみ絞る。

② ガソリン

- ・次年度も遠方が多くなると思われるので、更に各自エコドライブの意識の徹底と燃費の向上に取り組んでいく。

③ 軽油

- ・業務上、使用頻度や量は依然として高い。更に無駄のないルート選択を心掛ける。

(2)廃棄物排出量の削減・分別

- ・極力ごみの出の少ない製品を使用する、物持ちをよくする。
令和5年からゴミ袋の値段も上がったため、より使用ゴミ袋の数を減らしていく。
- ・リサイクルの推奨

(3)総排水量（使用水量）の削減

- ・蛇口の閉め忘れによる水の出しっぱなし、漏水などの無駄遣いに注意する。

(4)ルート時間短縮による燃費の向上

- ・ガソリン、軽油削減にも繋がるため、エコドライブの意識を呼びかけ等で更に各自に定着させ、実施を徹底させる。

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法（廃掃法）の遵守状況を自社でチェックした結果、違反はありませんでした。なお、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去5年間ありません。

1 1. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

エコアクション活動と事業経営は全く別の事の様で、実はエコアクションを通じて学ぶべき事はたくさんあると思います。

日々の無駄を少なく、資源を大切に。備品や消耗品、燃料等は値上がりする一方です。また、温暖化や大雨や自身に対する備えも、問題が大きくなる前に準備できる事があります。

感染症や黄砂やスモッグに対する健康管理も、地球環境と事業経営は常に一体であると感じます。

地球規模での戦争や紛争は日本も他人事ではなく、日本における少子化の一因にもなっている様に思います。

北九州市が現在力を入れて取組む環境モデル都市が、市の人口減少に歯止めをかけ、事業者の雇用問題の解決につながっていくことを願っています。

取り組みの様子

●番組「池の水大作戦」による池の清掃

